

インドネシアと沖縄(日本)のキリスト教が 交差するところ

～民衆史を視野において～



沖縄キリスト教平和総合研究所

沖縄慰霊の日・特別講演会

日時：6月15日(土) 午後2時

場所：沖縄キリスト教学院

シャローム会館 1-1 教室

(〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長 777)

【講師】

原 誠 氏 (元同志社大学教授)

入場無料

福岡県出身。1973年に同志社大学神学部を卒業後、同大学大学院神学研究科修士課程に進学し、1978年に同大学院修了後、日本基督教団霊南坂教会担任教師、新島学園短期大学教授を経て、同志社大学神学部教授。

2019年に定年退職。

専門は、日本とアジアのキリスト教の歴史。

「万国津梁」の国としてアジアと交易をしてきた歴史を持つ琉球も、日本に組み込まれて以後、以前とは異なった仕組みのなかにおかれました。日本は太平洋戦争下にインドネシアに軍政を敷き、その過程で日本の教会は海軍の要請をうけて軍政の目的の実現のために教師を送りました。

インドネシアにどのような歴史があって教会が設立されたのか、そして軍政下に敵性宗教であるキリスト教がどのような状況におかれたか、送られた教師はインドネシアでどのような役割を担ったのか、これを知ることによってそれぞれのキリスト教の歴史的コンテクストがあることがわかります。そして沖縄のキリスト教もその枠のなかに無関係ではありませんでした。

主催：沖縄キリスト教学院 沖縄キリスト教平和総合研究所

【お問い合わせ】 TEL：098-946-1279 FAX：098-946-1312 E-mail：ocpi@ocjc.ac.jp